

5歳から11歳のお子様への接種に努めていただくことになりました。新型コロナウイルス感染者全体に占める子どもの割合は増えています。ワクチン接種について、お子様と一緒にご検討ください。

1,2 回目の接種について

接種の対象と使用するワクチン

接種の対象

- 5歳から11歳の方
- 特に、慢性呼吸器疾患、先天性心疾患など、重症化リスクの高い基礎疾患（※）を有するお子様は接種をおすすめしています。接種にあたっては、あらかじめかかりつけ医などとよく相談してください。

（※）日本小児科学会では、新型コロナウイルス感染症の重症化リスクが高い疾患の一覧等を公表しています。

日本小児科学会「新型コロナウイルス関連情報」

URL: https://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=333



使用するワクチン

ファイザー社の5～11歳用のワクチンを使用します。子ども用のワクチンです（※）。

通常、3週間の間隔をあけて、合計2回接種します。

（※）ファイザー社の12歳以上のものに比べ、有効成分が1/3になっています。

出典：厚生労働省リーフレット

「新型コロナワクチン接種についてのお知らせ（5歳から11歳のお子様と保護者の方へ）」

接種当日は母子健康手帳もご持参ください

新型コロナワクチンの効果・安全性

オミクロン株流行下における発症予防効果については中等度の有効性を（2-4週間後60.1%、5-8週間後28.9%）、入院予防効果については接種後2ヶ月間で約80%の有効性を有するとの報告があります。

また、我が国における副反応報告において、安全性にかかる懸念はなかったと報告されています。

出典：第35回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会（令和4年8月16日開催）

大阪府からのお知らせ

◎大阪府コロナワクチンポータルサイト

ワクチン接種のメリット・デメリットを含め、接種の判断にあたり参考となる正しい情報や府内市町村における小児接種会場等に関する情報をホームページで発信しています。

▼ポータルサイトはこちら▼



▼Twitterはこちら▼



◎大阪府新型コロナワクチン公式 Twitter

～接種に関する正しい情報等を発信～



©2014 大阪府もずやん

◎大阪府新型コロナワクチン専門相談窓口（24時間受付）

電話番号 0570-012-336 または 06-6635-2047

FAX 06-6641-0072 ※聴覚に障がいのある方をはじめ、電話でのご相談が難しい方

- ・あくまで電話相談であり、診療などの医療行為を行うことはできません。
- ・明らかに緊急を要する場合、119番をご利用ください。
- ・外国語対応もしています（英語、中国語、韓国語：24時間、ベトナム語：9時～22時）

【みなさまへのお願い】

新型コロナワクチンについては個人の判断で接種されるものであり、その判断は尊重されるものです。ワクチンを早く受けている人や、ワクチンを受けられない理由がある人など、様々な人がいます。ワクチンを受けている、受けていないといった理由で周りの人を悪く言ったり、いじめたりすることは、絶対にあってはなりません。

（3回目接種については裏面をご覧ください）



3

5歳から11歳のお子様も、 回目接種が受けられるようになりました。

Q. なぜ追加接種（3回目接種）が必要なのでしょうか？

A. 子どもの感染者数の増加とともに、重症者数も増加傾向にあります。初回接種（1・2回目接種）後、時間経過とともに発症予防効果が低下しますが、追加接種（3回目接種）を行うことにより効果が回復すると報告されています。ぜひ、お子様と一緒に3回目接種をご検討ください。

接種の対象と使用するワクチン

- 1・2回目接種を完了した5～11歳のお子様を対象です。
- 1・2回目接種を完了し、5か月以上、間隔を空けて接種します。ファイザー社の5～11歳用のワクチンを使用します（※）。（※）ファイザー社の12歳以上のものに比べ、有効成分が1/3になっています。



新型コロナワクチンの効果

Q. 3回目接種をすることで、どんな効果がありますか？

A. 新型コロナワクチンを受けることで、新型コロナに感染しても症状が出にくくなります。5～11歳の子どもに対するワクチンの追加接種後は、オミクロン株を含む新型コロナウイルスに対する中和抗体価（※）が上昇します。

また、近い年齢の子どもにおいて、時間経過とともに低下した初回接種による発症予防効果が、追加接種により回復すると報告されています。

（※）ウイルスの感染力や毒素の活性を中和できる抗体の値のこと

発症予防効果（イメージ）



出典：特例承認に係る報告書

Fleming-Dutra KE, Britton A, Shang N, et al. Association of Prior BNT162b2 COVID-19 Vaccination With Symptomatic SARS-CoV-2 Infection in Children and Adolescents During Omicron Predominance. JAMA. 2022;327(22):2210-2219.

（12～15歳のデータより作成）

新型コロナワクチンの安全性

Q. 3回目接種を受けた後は、2回目接種の後と比べてどんな症状が出ますか？

A. 5～11歳の子どもに対する3回目の接種後7日以内の副反応は、1・2回目接種の後と比べると、おおむね同様の症状が見られ、2回目接種時を上回るリスクは報告されていません。

■ 5～11歳の接種後7日間に現れた症状発現率の比較（ファイザー社ワクチンを使用）

報告割合	接種後の症状（2回目接種後→3回目接種後の症状の発現率）		
50%以上	疼痛（72.2→73.9%）		
10～50%	疲労（46.6→45.6%）	頭痛（30.1→34.0%）	筋肉痛（12.5→18.3%）
	発赤（16.5→15.6%）	腫脹（14.0→16.4%）	悪寒（10.3→10.5%）
1～10%	発熱（8.8→6.7%）	関節痛（5.5→6.7%）	下痢（6.5→4.9%）
	嘔吐（1.8→2.4%）		



出典：特例承認に係る報告書

5～11歳用のワクチンがオミクロン株流行下でも有効であるとの最新情報を踏まえ、5歳から11歳のお子様
にワクチンを受けていただけるよう、ご本人とその保護者の方に努めていただくことになりました。これは、国民
の皆さまに接種にご協力いただきたいという趣旨によるものであり、接種を強制するものではありません。

詳しくは厚生労働省ホームページQ&Aをご覧ください。→

